

◎ 日本コエンザイムQ協会発足で記者会見

1日付で発足した日本コエンザイムQ協会(理事長・山本順寛東大院助教授)は6日、協会発足にあたって記者会見を開いた。コエンザイムQ(CoQ)は人間の細胞内のエネルギー産生に不可欠な成分で、不足すると老化や様々な疾患を誘発するとされている。欧米では栄養補助食品素材として人気が高く幅広く活用されており、日本でも最近、TVなどで話題となっている。今回発足した協会は、既に活動を展開している国際コエンザイムQ10協会の日本支部として発足されたもの。CoQの普及活動や研究開発の奨励などを展開する予定だ。

CoQは体細胞内で抗酸化物質として作用しているが、年齢とともにその濃度が減少する物質。他の食物では補うことができないため、欧米では美容や健康を維持する手法としてCoQをサプリメントとして補給している。現在量産しているのは日清製粉グループの日清ファルマなど日本のメーカーのみ。日本では法律上、うっ血性心不全の治療薬として使われてきたため、一般の人への普及が遅れた経緯がある。だが昨年3月に食薬区分改正により、サプリメントとして利用できることになったことから、各社メーカーがPR活動を積極展開している。

山本理事長は「CoQは日本発の大切な物質である。有名運動選手からも注目されている。パーキンソン病の患者については病気の進行が抑えられたと言うデータもある」とCoQの有用性を説明した。この他、循環器系疾患や低血圧、アトピー皮膚炎、薬剤の副作用予防、術後の早期回復などにも有効に作用している、とする事例も紹介された。